

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	一般廃棄物処理施設に係る「かんきょうサポーター」協働事業
事業主体 (連絡先)	北アルプス広域連合 (総務課 施設整備推進係)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	865,329円 (うち支援金: 553,000円)



事業内容

現在建設中の一般廃棄物処理施設が地域と調和した親しまれる施設となるよう、計画段階から「かんきょうサポーター」を発足し、住民との協働により事業を進めてきた。

施設周辺は松林に囲まれ、環境学習の場のほか周辺地域との緩衝帯として重要な役割を果たしているが、年々北上する松枯れ被害が懸念されている。

このため、今年度は住民やかんきょうサポーターとの協働により、松枯れの原因となる松くい虫の媒体・カミキリムシを多く捕食するアカゲラの定住と環境のバロメーターともいわれる野鳥の誘致を図るため、鳥巣箱の作成と設置を行う。



【巣箱づくりの様子】

【目標・ねらい】

- ① 一般廃棄物処理施設に親しみを持ってもらう
- ② 松林の保護と環境学習のための野鳥の誘致

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 8月6日に17名(うち児童生徒8名)が参加し、施設周辺の林において巣箱の作成と設置を行った。子どもたちは、自分が作った巣箱を林に設置したことで、環境への関心と施設に親しみを持ってもらうことができた。
- ② イベント時に設置できなかった巣箱は、12月に施設周辺の林に設置した。今後、野鳥が巣箱を利用することが期待される。

※自己評価【B】

【理由】
参加した子どもには、施設について理解や親しみを深めてもらえた。巣箱も予定通り設置することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

定期的に野鳥が巣箱を利用しているか観察を行うとともに、巣箱の利用を促すため、巣箱の定期的なメンテナンスを行う必要がある。

今後、小中学生の参加を呼びかけ、野鳥の観察会や古くなった巣箱の交換などのイベントを通じて、自然環境への関心を持ってもらうとともに一般廃棄物処理施設が地域に親しまれる施設となるよう取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある